

第3回 露地野菜情報交換会（にんじん）結果概要

にんじん生産者やJAを対象とした、にんじんの需要や全国の産地の動向に関する情報交換会を開催しました。

日時	令和2(2020)年2月21日(金) 13:30~15:30
場所	栃木県庁研修館302研修室
内容	(1)にんじんの需要や全国の産地の動向及び栃木県の展開可能性 講師：講師 株式会社ショウナン 代表取締役社長 松尾 雷太 氏 (2)情報交換会、個別相談会
主催	栃木県農政部生産振興課
参加者	23名

【主な講演内容】

ア 全国の産地の状況

- にんじんはどこでも栽培可能で、調達しやすい商品であるため、競争は厳しい。
- JAとの取引の場合、一般青果メインで、一定割合発生するB品を想定し、加工契約とするパターンが多い。
- 茨城県には加工用をメインにしている生産者も多い。

イ 需要の動向

- 加工用の人参と言っても年々品質基準は厳しくなっている。割れがあるとそこから泥などが入るという事で、NGが出される。
- 求める人参は、太さが均一なもの、ちょうどペットボトルのような形の人参が使いやすい、これから産地化していくのであれば特徴ある品種を作る必要がある。
- 5~7月は品薄になる。産地で貯蔵して安定供給できれば引き合いは強いと思う。

【参加者の声】

- 実需者から求められる品種や品質、出荷時期等、具体的な話だったので参考になった。

《情報交換会の様子》

